

## 社名：育英社の由来

◆冊子「80年のあゆみ」（箕面自由学園小学校）P.42より

中山寺時代になるとすぐ英語の学習が始まり、英会話が中心の楽しい授業でした。当時も音楽、美術や英語は、<sup>せんか</sup>専科の先生が教えていました。また、チャイムもなく、教室がはなれているため、授業の始まりや終わりは、先生によってまちまちでした。

休み時間には、広い境内でかんけりをしたり、お堂のゆか下にもぐってたんていごっこをしたりして遊びました。

このころ、お父さんやお母さんたちは、学園校舎さい建のために境内やお堂を使って、バザーを開いたり、<sup>いせいしゃ</sup>「育英社」という会社をつくり、物を売ったりして資金づくりに努力されていました。

1947年（昭和22年）4月に学校名を「箕面自由学園小学校」とあらためました。

### 学園の名前の由来<sup>ゆらい</sup>

学園は、設立当初箕面にあったので、箕面の名をとり、再建に際し、創立以来の教育理想である“自由の精神”を校名に取り入れ、箕面自由学園と改名した。



中山寺でのクラス写真

お堂が、当時はつき上げ式のまどで、暗いので、開けて勉強していました。今はさい<sup>せんばこ</sup>銭箱は外に置いてありますが、そのころは、取られるから中に置いてあったんです。お参りに来た人がお堂の中にさい<sup>まい</sup>銭を投げ入れるんです。そうしたら、勉強しているぼくらの頭の上からさい銭がふってくるがありました。

また、お参りに来た人やお寺ののき下に住みついている人にお弁当を持っていかれることもしばしばありました。

（当時4年生のM・Nさんのお話）